



# 栃の木からの手紙

2020年 皐月 5月号



4月下旬、分かっているけど5月号会報を書けませんでした。

この春の慣行農法の早出し男爵芋の播種作業初日は、4月23日でした。順調に作業が進んでいる様でいて、この日の夕方にはとんでもない事になりました。突然、降り出した俄か雪。往復700m



の途中の播種作業を完了させると既に写真の様な積雪状態になっていました。翌日の昼には雪も融け午後には、芋の播種作業を再開できました。

さて自然農法の芋の播種日は何時でしょう？ 以前は「カッコウが鳴いてから一週間位の間」に播種する事を意識していましたが、今では、慣行農法の芋やビートの植付けが終わった後に続けて自然農法の芋の播種作業を進めています。でも、周囲の環境を意識してみると、自然農法の作物（芋・大豆等）を植える頃には大概、李（すもも）の白い花が咲いているのです。

今年は、5月13日に李の白い花が咲きました。そして13・14・15日で芋を播種。21日には黒大豆を播種、李の花は満開でした。



5日： 立夏

7日： 満月 旧 4月 15日

20日： 小満

23日： 新月 旧閏4月 1日

黒大豆を播種して翌22日には、ハトによる食害を防止する為にパオパオシート200mを4本掛けました。5人で2時間の作業量でした。翌23日、白糠町の「もりもりふぁ〜む」の成澤様を案内して訪れた杉沢氏は、大豆にパオパオを掛けた人達のチームワークの良さに感心していました。ちなみに私が固定した筋だけクネクネと曲がっていたのです。



22日に、有機JAS規格で育苗したレタスと食用ビーツの苗を有機JASの畑に移植して貰いました。

育苗に使用した資材は、和歌山県紀の川市桃山町の(株)阪中緑化資材から取り寄せた「有機培土ゆうきくん」。種子は、食用ビーツは一般の種子ですが、レタスは「自然農法国際研究開発センター」の自然農法種子を使いました。